

審査の結果の要旨

氏名 堀田由香里

人が創造的な表現活動を行うためには、他者との協働的な関わりが必要となる。本論文は、園において5歳児が自由遊びでの描画表現活動において、他者とどのように関わりあい、表現がいかにか創発するかの解明を目的としている。本論文は全5部10章からなる。

第Ⅰ部第1章では、幼児の描画研究を概観し、①保育における幼児の描画表現の変容過程、②他児との親密性による描画表現の差異、③幼児同士の関わりにおける他児の役割、④幼児同士の即興的な関わりと描画表現の創発過程との関連、⑤環境構成が幼児同士の関わりと表現過程に及ぼす影響という5点の検討課題を導出している。続く第2章では、参与観察、マイクロ・エスノグラフィー、ビデオ記録という本研究の方法が説明される。

第Ⅱ部では、幼児の描画表現スタイルと他児との親密性による描画表現の変容過程を検討している。第3章では、他児との関わりが少ない男児1名の1年間32事例から「視覚的世界」の描出が中心の時期を経て「意味的世界」が表われ、他児が各々の関心に基づき、参入するようになるといった他者関係の形成と描画表現との相互的關係が生起することを示している。第4章では、女児1名8ヶ月間の29事例から、親密性の高い他児には相手の提案や指示を直接取り込むのに対し、親密性の低い他児には自分の思いを優先させる等、関係性により描画に対する捉え方や応答行為、発話に差異が生じることを示している。

第Ⅲ部では、幼児同士の即興的な応答的関わりの特徴と構造を検討している。第5章では、1年間の他児の応答行為(562回)を分析し、3人以上同一テーマの場合は新たな展開を促す応答行為が多く、個別テーマの場合は「興味関心」「短答」「模倣」「感情の吐露」等、多様な応答行為が生起分類することを示している。第6章では、隣接発話対の分析から、描画への関心を「疑問」として伝えることが相互理解を促すこと等を示している。そして、第7章では、描画フレームについて、外から進行を提案する明示的発話が「提案」「質問」「依頼」等多様な応答行為となり、描画フレームの共有と拡張をもたらすことを示している。

第Ⅳ部ではメディアを用いた描画表現活動を検討し、第8章ではOHP(実物投影機)を用いた5歳児描画表現活動を、第9章ではデジタルメディアを用いた5歳、4歳の描画活動での応答連鎖を検討し、環境構成が幼児同士の関わりと表現の創発過程に影響を及ぼすことを明らかにしている。そして第Ⅴ部第10章総合考察では、上記7研究を概括し、本研究の意義と今後の課題を整理している。

本論文は、園での描画活動における協働過程を長期間の精緻な観察記述分析により明らかにした点で独自性が高く、環境としてのメディアのあり方等も含め、幼児教育、アート教育への可能性を拓く研究であり、教育実践にも寄与すると高く評価できる。よって、本論文は、博士(教育学)の学位を授与するに十分にふさわしい水準にあると判断された。